

**平成 28 年度 就学前人権教育研究協議会 C（実践発表） 実施要項**  
**－子どもを中心にした、人権尊重の就学前教育をめざして－**

- 1 目的 人権教育の観点に立った幼稚園・保育所の子どもを中心にした取組の実践発表、協議等を通じて、その在り方と指導スキルの向上についての研修を実施する。
- 2 対象者 保育所、認定こども園、地域型保育事業及び認可外保育施設の  
 保育士、保育教諭、保育従事者  
 募集人数 150 名

3 研修内容等

回	日 時	研修内容〔実践発表・研究協議〕	講 師 等
1	1 月 30 日（月） 14:00～17:00	<b>〔第 1 分科会：障がい理解〕</b> <b>「喜びや悲しみを、共に感じる」</b>	発表：幼保連携型認定こども園 いまむらこどもえん 保育教諭 河野 寛子 保育教諭 山本 恵子 助言：臨床心理士 久司 万里子
		<b>〔第 2 分科会：保幼小連携〕</b> <b>「子どもが困らない子どもの安心の場            つくりのための連携とは何か」</b> －「にじいろノート」の取り組み－	発表：(福)盛幸会 忍ヶ丘愛育園 保育士 山本 みずほ 保育士 加藤 涼子 保育士 車谷 一樹 助言：常磐会短期大学 非常勤講師 西原 美保子
		<b>〔第 3 分科会（子育て支援）〕</b> <b>「未来をみずえた保育をつくる」</b> －多様性を認めあい豊かに生きるため－	発表：泉南市立なるにっこ認定こども園 主幹保育教諭 古谷 洋子 保育教諭 川端 礼子 助言：大阪教育大学 准教授 佐久間 敦史

- 4 会 場 大阪府教育センター（大阪市住吉区苅田 4 丁目 13 番 23 号 電話 06-6692-1882）

地下鉄御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約 700m  
 JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約 1,400m  
 近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約 1,700m

- 5 担当室 大阪府福祉部子ども室子育て支援課
- 6 その他 (1) 受付は30分前から  
 (2) 印鑑を持参すること  
 (3) 来所時には、所属名・名前が入った名札を着用すること  
 (4) 自家用自動車・バイク等で来所しないこと  
 (5) 事前に準備しておく事項があるので、シラバスを必ず確認しておくこと

## 平成 28 年度 研修のシラバス

1. 研修名	<p>就学前人権教育研究協議会 C（実践発表）</p> <p style="text-align: center;">－子どもを中心にした、人権尊重の就学前教育をめざして－</p> <p style="text-align: right;">（研修番号 5180）</p>
2. 研修のねらい	<p>人権教育の観点に立った幼稚園・保育所の子どもを中心にした取組の実践発表、協議等を通じて、その在り方と指導スキルの向上についての研修を実施する。</p> <p><b>目 標</b></p> <p>① 人権が尊重された就学前教育の在り方について理解する。</p> <p>② 人権教育の推進体制や地域・保護者・関係機関等との連携の在り方について、認識を深める。</p> <p>③ 人権教育の効果的な指導方法等について認識を深め、人権教育の取組についての展望を持つ。</p> <p style="text-align: center;">「OSAKA 教職スタンダード」該当項目：第 1・2 期 1・9・11・13・15</p>

### 3. 研修課題とねらい等

回	研修テーマ	内 容	準備物・事前課題
1	<p>第 1 分科会</p> <p>喜びや悲しみを、共に感じる</p>	<p>一人一人感じる心を持って、懸命に生きている仲間として、お互いを大切に思う気持ちを育み、ともに育ちあうために幼児期にどのような保育・教育が必要なのだろうか。自然界の多様性や共生の姿から学ぶこと、世界の様々な文化の違いを知ること、平和を求める心を育てること等、子どもたちが直接体験し感じることを大切にする取組を報告します。</p>	
	<p>第 2 分科会</p> <p>子どもが困らない子どもの安心の場づくりのための連携とは何か</p> <p>－「にじいろノート」の取り組み－</p>	<p>一人一人の「もちあじ」は、これまでのさまざまな経験から生まれた大切なものであり、一人一人がかけがえのない存在であることを日々の保育園生活の中で体感し、「わたしは大丈夫！！」と思える子どもに育ててほしいとの願いから、引き継ぎのためだけでなく、子ども自身のためのノートを作りたいという思いからできた「にじいろノート」の実践について報告します。</p>	
	<p>第 3 分科会</p> <p>未来をみすえた保育をつくる</p> <p>－多様性を認めあい豊かに生きるために－</p>	<p>中学校区で連携し、保育所として生き方を確立するキャリア教育に取り組んでいる。外国にルーツのある子どもが生き方をつくるために、つながりの中で多様性を認め合い、アイデンティティーを確立する営みが欠かせない。その現実を再確認し、日々の保育、保護者への取組を報告します。</p>	